文部科学大臣賞

お米は僕の人生に欠かせない

鳥取県三朝町立三朝中学校一年
北岡　武朗

僕はお米が大好きです。ふりかけなしで白ごはんだけで何杯もいけるくらいで、朝昼晩お米でも飽きません。お米なしの生活など考えられません。

僕にはアレルギーがあり、小麦と卵を食べることができませんでした。そんな僕を救ってくれたのがお米でした。米粉でパンを作ったり、米粉のパスタを食べるなどいろんな工夫をしていたことがとても心に残っています。今は小麦も卵も食べることができるようになったけれど、そのような経験のおかげでお米が好きになったんだと思います。

もっとお米が好きになる出来事が去年の秋にありました。二年前の冬、

「今年から米作るぞ。」

と、急に父に言われました。我が家には田んぼがあるけれど、曽祖父が亡くなってから放ったらかしになっているし、父は仕事があるので、稲作をするなんて思ってもみませんでした。父に聞いてみると、

「我が家の田んぼでもう一度お米を作りたい。」

という夢をずっと持っていたそうです。僕も小学校の授業でやった田植えや稲刈りがとても楽しく、それからは稲作をやっている友達や近所の方に憧れを持っていました。お米を作ると聞いて、楽しみになってきました。

と言っても、稲作経験はありません。いきなり我が家の田んぼでやるのはハードルが高すぎたので、まずは農協から手入れの行き届いた田んぼを借りて、稲作をすることになりました。農業機械を持っていないので、田植えや稲刈りは業者さんに任せ、自分たちでできることはできるだけやることにしました。代かきは近所の方にゆずってもらったトラクターを使ってやり、水は木の板を使って調節しました。僕たちが作業していると、いつも近所の方が声をかけてくれます。時には手伝ってもらうこともありました。僕は、田植えを見学したり、機械でできないところを自分で植えたり、田んぼの横の水路で弟と水遊びをしたりして楽しみました。

父は毎朝毎晩田んぼに行って、稲がどうなっているか見ていました。逆に僕は、興味はあるけど、課題やゲームをしていて、ずっと見にいきませんでした。父や弟に

「育っていくのを見ていると面白いよ。」

と言われても田んぼに行く気にはなりませんでした。

秋になり、稲刈りの時期になりました。田んぼにずっと来ていなかったので、いつの間にか黄金色になった稲を見て、驚くと同時に感動しました。稲が機械でどんどん刈り取られていくのは見ていて飽きませんでした。このお米を食べると考えると、なんだかわくわくしてきました。

初めて自分たちで作ったお米を食べると、

「うまい！」

思わず言葉が出ました。自分たちで作ったお米はこんなに美味しいんだと感じ、これまで頑張って作ってきてよかったと思いました。

この美味しいお米をぜひ食べてもらいたいと、新米を親戚に配って回ることにしました。みんなから返ってくるのは、美味しいという言葉でした。主に父が作ったお米だったけど、なんだかとても誇らしかったです。もっと色々な人に僕たちが作ったお米を食べてもらいたいと思いました。

僕は、毎日給食で必ずお米をおかわりします。今回お米を作ることの大切さを学んだので、これからもフードロスを出さないようにできるだけ食べるようにしたいです。また、近所の方の優しさ、あたたかさを知ることもできました。

このようなことがあって僕はもっとお米が好きになりました。これからも父が作ったお米を食べていきたいです。また、それが我が家の田んぼでできたものであれば最高です。いつかは自分でお米を作ってみたいです。